

植物に学ぶ 30 年後の植物科学の生存戦略

東洋大学大学院生命科学研究科 堀口 元気

30 年後の植物科学、というテーマですがそもそも 30 年も生きていない若輩としては、イマイチピンと来ないというのが本音です。30 年とはどのくらいの時間なのでしょう。10 年前だとまだ折り畳み式携帯電話を使用していた気がします。しかし、いつの間にか急激に進歩するようになり、小型で持ち運べる電話機からこれ一台で各種サービスの予約から支払い何までも行う時代が訪れようとしています。もはや通話という機能はおまけ、携帯ではなくスマートなものへと進化しました。一方で、私の持っているものは電話機の役割を半ば放棄しており、暇つぶし機能つき目覚まし時計へとなり果てました。

閑話休題。それだけ科学技術が進歩したという話をしたかったのです。その科学技術の進歩を背景に植物科学も発展しました。情報処理技術によるゲノム解析、情報処理とカメラの進歩を合わせることで実用レベルに至ったクライオ電子顕微鏡による構造解析がその例です。これらの技術により未解明だったものが明らかになることでしょうし、今後も新技術を取り入れながら植物科学は更なる発展をしていきます。しかしながら、その逆パターンはあるのでしょうか。植物科学の進歩が他分野の発展に貢献するという事です。少し考えてみました。思いつきませんでした(勉強不足なだけでしたら申し訳ありません)。もちろん、技術の恩恵を受けて植物科学が発展し、植物科学が食糧問題などの地球人類が抱える問題を解決するという流れがあるのは分かります。しかしもう少しだけお互いに直接的な影響を与えることはできないのでしょうか。ただ、一学生が抱えきれない問題でもないので、これを機に皆様と問題を共有できたらと考えております。

そもそも科学界隈ではなく世間一般で植物って認知されているのでしょうか。スーパーなどで目にすることが多い根や葉、果実は野菜や果物であり、色とりどり私たちの心を綺麗にしてくれるのは花。そこら辺に生えているのは草や木。そう、植物ではないのです。日常生活で植物という単語を聞くことがありません。動物という単語は聞く気がするのに。30 年後にはより植物科学、なによりも植物がより身近に感じられることを願います。具体的には特撮番組のテーマや変身アイテムになるといいですね。ああいうのは子供が憧れそうなものを取り上げられることが多いです。近年の理系ブームにあやかっただけか、主人公が物理学者ということもありましたし、現行作品(2019 年 12 月時点)は人工知能搭載ヒト型ロボが普及した世界観となっています。主人公は草食系男子ならぬベランダで植物を育てることが趣味の心優しい植物系男子、ヒロインは研究者に狙われる植物系の異星人(緑色の髪をした美人)とかどうでしょう。そのときは植物学会会員の誰かが番組における植物監修を務めているはず。そして目指せ、小学生がなりたい職業ランキング一位、植物学者。

何はともあれ、つれづれなるままに、日暮し、ばそこんにむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、なにかおもふに飽かざらむ。